

増田悦夫先生のご退職によせて

流通情報学部長 矢 野 裕 児

増田悦夫先生が、流通経済大学流通情報学部を、2022年3月末をもって定年で退職されます。流通情報学部紀要第26巻第2号を、増田悦夫教授定年退職記念号とさせていただきます。

増田先生は、1977年にNTTに入社され、武蔵野電気通信研究所、交換システム研究所、ネットワーク・サービス・システム研究所等に在籍され、情報・通信ネットワークについての研究を長年にわたってされてきました。NTTの研究所といえば、日本における情報・通信ネットワーク研究の頭脳ともいえるところであり、増田先生がNTTにおられた時期は、情報化社会、情報社会、高度情報通信ネットワーク社会へと変容する時期と重なり、その礎にかかわられた方でもあります。その間、研究成果を論文「高度インテリジェントネットワークにおけるシステム制御技術に関する研究」にまとめられ、博士（工学）学位も授与されています。

増田先生が本学にこられたのは2002年、大学院物流情報学研究科博士後期課程を開設するタイミングでした。流通情報学部は、2000年からロジスティクスを柱としたカリキュラムに変更していました。さらにこの時期、学部が開設してから6年が経過し、かつ同時期に5人の専門科目の教員が加わった時期でもありました。今後の学部方針をどのようにしていくかについて、熱い議論がなされた時期であり、増田先生からも様々な貴重なご意見をいただきました。

増田先生は、情報・通信ネットワークの技術的な側面の研究と同時に、社会のどの分野に適用していくことができるかについて、特にマーケティング、ロジスティクスとの関係を研究されてきました。そして、ロジスティクスにおける情報通信技術の具体的な適用に関連した様々な論文を発表されています。講義科目も「通信・ネットワーク概論」「コンピュータネットワーク概論」のほか、「ネットマーケティング論」、実践系科目である「情報システム実践講座」と、多彩な科目を担当していただきました。

また、流通情報学部の学部運営においても、多大な貢献をしていただきました。学部長を2011年度途中から2016年度まで、大学院物流情報学研究科長を2005年度から2008年

度まで、さらにFD委員長を2017年度から2020年度まで担当していただくなど、休みなく重要な役割をお願いすることとなりました。本学部が発展する重要な時期に、かじ取りをしていただいたことになります。

個人的にも、大変お世話になりました。2008年度、2009年度に経済産業省の「産学連携育成事業」として認定され、学部でサプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラムを構築しようとしたとき、なかなか進まないなか、酒の席などで私の愚痴を聞きながら、様々なご助言をいただきました。苦労した結果、産学連携プログラムとしてきちんとした形で位置づけられ、今日まで継続、充実してきたのは、増田先生のご協力によるものです。

また、国際学会においてもウィーン、イスタンブール、クアランブールなど何度も一緒させていただき、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。なかなか日が暮れない夏のヨーロッパで、ビール、ワインを飲みながら、増田先生の好きな猫の話を聞き、過ごした時間は、今のコロナ禍の状況では考えられない幸せな思い出となりました。

長年にわたり、流通経済大学流通情報学部ならびに大学院物流情報学研究科に、様々な形でかかわっていただいたことに対して、御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



2012年7月 EIRASS 学会発表会場にて（ウィーン）